



【問】83歳の父は現在寝たきり状態です。だんだん食事が減ってきて、体重も落ちてきたので、主治医の先生の勧めで胃ろうをすることにしました。今まではかかりつけ歯科医の先生に往診してもらい、歯科衛生士の口腔(こうくう)ケアを受けてきたのですが、口から食べなくなっても口腔ケアは必要なのでしょうか。(諫早市、50歳女性)

【答】食物や水分を飲み込む嚥下(えんげ)機能が低下した患者さんに、腹部に開けた穴から管で栄養を胃に直接入れる「胃ろう」を設けた場合、「口から食

### 胃ろう後の口腔ケア

#### 清潔に保ち肺炎防いで

べないので口腔ケアは必要ない」と思われるかもしれませんが、しかし、口を使わないと、唾液分泌が減少するため自浄作用が低下します。唾液に含まれる成分による殺菌力が弱まるのです。さらに歯肉がやせてくると、粘膜

の抵抗力も弱まります。その結果、緑膿(りよくのう)菌や歯周病菌など口腔内に常在する細菌やカビが異常繁殖します。これらの細菌やカビが気管に入り、肺炎を引き起

すこともあり、栄養が逆流して口腔内に入り、唾液と混じって粘膜に付着するとバイオフィルムという細菌の塊を形成することもあります。それが気管に入り、肺炎を引き起

すことでもあります。加齢とともに嚥下機能は低下しますので、唾液が気管に入ることを防ぐことはできません。ですが、口腔

ケアにより唾液を清潔にすることで、肺炎の発生率を下げることができます。胃ろうからの栄養摂取により栄養状態が改善したり、あるいは絶食後に継続する嚥下機能のトレーニングをしたりすることにより、再び口から食べられる可能性も出てきます。口腔ケアは食べる喜びを取り戻す健康の入り口にもなります。お父さまの健康維持のために、かかりつけ歯科医や歯科衛生士と力を合わせて、ぜひ口腔ケアに取り組まれてください。(県歯科医師会医療情報委員会)

質問をどうぞ 歯と口の健康に関する質問を受け付けます。県歯科医師会の先生方が回答します(直接本人に回答はしません)。症状などを分かりやすくまとめ、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、〒852-8601、長崎市茂里町3の1、長崎新聞社生活文化部「お口の相談室」係に送ってください。県歯科医師会のホームページは「8020ながさき」で検索できますので参考にしてください。